

国の税収が過去最高の67兆円に！

<税収が過去最高となった理由は？>

財務省が7月5日に発表した国の2021年度一般会計は、税収が前年度比10.2%増の67兆379億円と2年連続で過去最高となりました。新型コロナウイルス禍からの業績回復に加え、円安も寄与し、企業収益が拡大したことで法人税収が伸びたほか、消費税収、所得税収も堅調だったことが大きく影響したと考えられます。

法人税については、製造業ではコロナ禍からの回復が比較的早かったほか、非製造業でも業績が持ち直していることが税収増に繋がったとみられています。

消費税については、消費の持ち直しのほか、年度後半の物価高で購入額が増えたことが上振れ要因となっているようです。

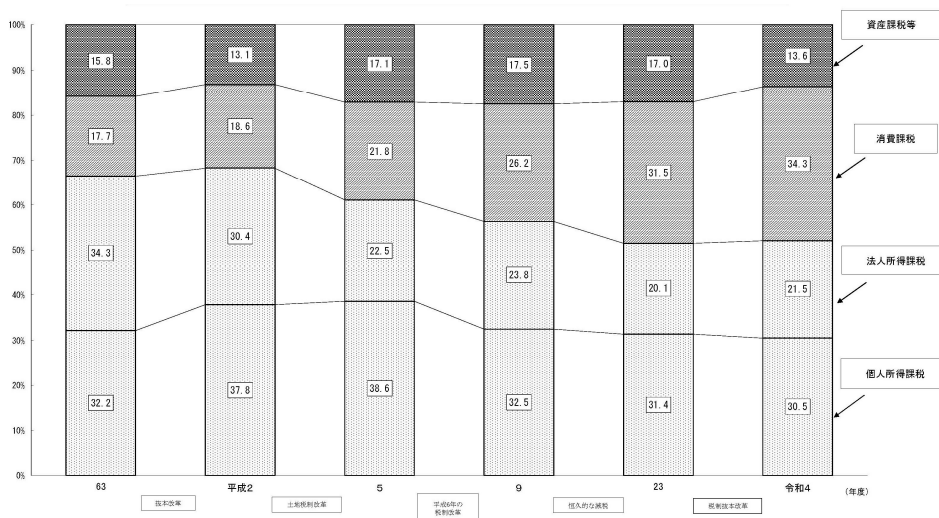
<各税目ごとの税収>

いわゆる「基幹3税」の内訳は、次の通りとなっています。

- ・法人税 13兆6,428億円(前年度比 21.4%増)
- ・消費税 21兆8,886億円(前年度比 4.4%増)
- ・所得税 21兆3,822億円(前年度比 11.4%増)

各税目(国税+地方税)の税収構成比の推移は、下記の通りです。

(財務省HP「税収に関する資料」より抜粋)



消費税率の上昇に伴い消費税の占める割合が高まっています

<税収増で歳出への影響は？>

歳出面では、新型コロナウイルス対策や物価高対策が盛り込まれた補正予算も積み重なったことで、2021年度の当初予算と補正予算を合わせた歳出規模は140兆円を超えており、税収の2倍以上となっています。

財務省は税収の上振れ等から国債発行額を8兆円減額する見込みですが、歳出が歳入を上回る状況は今後も続くと考えられます。

本資料は2022年4月1日現在の税制に基づいて作成しています。また、内容につきましては、情報提供を目的として一般的な法律上・税務上の取り扱いを記載しております。このため、条件が変わること等により、本資料と異なる取り扱いになる場合がありますのでご留意下さい。